

ファカルティ・ディベロップメントの概要

1. 実施報告

本委員会における主な活動は「授業評価」「授業公開」「FD 研修会」の3点である。2023年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが、2023年5月8日付で2類から季節性インフルエンザと同じ5類への移行に伴い、委員会をはじめ各種研修会を対面形式で実施することができた。

今年度新たな試みが1点ある。教員自身が担当した科目を総括して振り返り、次年度の授業改善に向けた手掛かりを獲得すること、もしくは授業改善の行動を促すことを目的として、「授業改善のための振り返りチェックシート」の取組みをトライアル的に行った。

大学教育の質保証及び学修者本位の教育への転換をめざし、教学マネジメントの具現化に向けた取り組みと位置付けられる。

授業評価の中心的な取り組みである「学生による授業評価アンケート」は、昨年度に続き総合教育システムを使用して Web 上で実施した。総合教育システムは UNIVERSALPASSPORT の授業評価アンケート機能を使用して実施した。アンケート結果に基づく教員の学生へのフィードバックコメントの提出は、例年通りアンケートフォームを使用した。

授業公開に関しては、昨年度は学科ごとに授業公開・見学の期間を分けていたが、今年度は分散ルールを撤廃した。また、公開期間を拡大したり、事前に授業担当者と交渉することで期間外の見学も可能としたりするなど、充実を図った。原則すべての授業を対象とした（ネイティブの教員との英会話を主とする「コミュニケーション演習」においては、業者委託による授業であるという事情から対象外とした）。この授業公開の実施は、授業評価アンケートの結果を授業改善に活用する重要な機会であると考えている。

「FD・SD 研修会」においては、シラバス作成上で求められている科目ルーブリックの考え方や作成方法について、オンデマンド形式で研修を行った。昨年度実施した理論研修及び科目ルーブリックの作成手順の映像資料を活用した。ディプロマ・ポリシーを踏まえ、「出口における質保証」の充実・強化につながるものと考えている。

例年実施している授業に関する学生・教員交流会は、1月11日（木）対面形式により実施した。メインテーマを「授業における ICT の有効な活用方法を考えよう」とし、トークテーマを① ICT ツール（スマートフォンやタブレット、PC 等）を授業でどのように活用してる？②これからの ICT 活用の可能性の2つを設定し、グループごとにディスカッションを行った。学生目線からの新たな授業改善の視点について、活発な意見が出された。今後の検討課題としていきたい。

以上